

報告

## 本学における「ボランティア」活動の実績と今後

福應 温<sup>1)</sup>・青木奈緒子<sup>2)</sup>・幾嶋洋一郎<sup>3)</sup>・中野智裕<sup>1)</sup>・吉川貴則<sup>4)</sup>

- 1) 純真学園大学 保健医療学部 検査科学科, 2) 純真学園大学 保健医療学部 看護学科,  
3) 純真学園大学 保健医療学部 放射線技術科学科, 4) 純真学園大学 保健医療学部 医療工学科

### Volunteer Activities at Junshin Gakuen University: Achievements and Future Prospects

Atsushi FUKUOH<sup>1)</sup>, Naoko AOKI<sup>2)</sup>, Yhoichiro IKUSHIMA<sup>3)</sup>,  
Tomohiro NAKANO<sup>1)</sup>, Takanori YOSHIKAWA<sup>4)</sup>

- 1) Department of Medical Laboratory Science, Faculty of Health Sciences, JUNSHIN GAKUEN University
- 2) Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, JUNSHIN GAKUEN University
- 3) Department of Radiological Science, Faculty of Health Sciences, JUNSHIN GAKUEN University
- 4) Department of Medical Engineering, Faculty of Health Sciences, JUNSHIN GAKUEN University

要旨：大学におけるボランティア活動は学生に多くの教育的社会的なメリットを提供するものとして、重要視されている。また、それらは社会貢献・地域連携といった大学の重要な機能も担っており、多くの大学で学生のボランティア活動の奨励と支援が行われている。本学では個人やサークルなどでのボランティア活動が開学以来続いており、2016年度開講の第2次カリキュラム以降、自校教育である「純真学」関連科目の「ボランティアとキャリア形成」または「ボランティア」（科目名としては「」で示す）においてボランティア活動を単位として認定している。本稿では「ボランティア」科目におけるこれまでの本学の取り組みとその活動実績と将来展望について報告する。

キーワード：ボランティア活動, 社会貢献, 地域連携, 純真学

Abstract: Volunteering at universities provides many educational and social benefits to students. Many universities encourage and support student volunteer activities as they play an important role in social contribution as well as ensure community cooperation. Student volunteering during extracurricular activities has been ongoing since the establishment of our university. Furthermore, since the commencement of the second curriculum in 2016, volunteer activities have been recognized as credits through the "Volunteer and Formation of Career" and "Volunteer" programs, which are subjects related to the school's education "Junshin-gaku." In this paper, we report the efforts of our university in the "Volunteer" course till date and discuss the results of those activities and future prospects.

Key words: Volunteer activities, Social Contribution, Community Cooperation, Junshin-gaku

### 1. 「純真学」における「ボランティア」の位置付け

大学におけるボランティア活動は学生に多くの教育的社会的なメリットを提供するものとして、重要視され<sup>1)</sup>、ボランティアセンターを設置している大学も2024年時点で160大学に及んでいる。<sup>2)</sup> また、それらは社会貢献・地域連携といった大学の重要な機能も担っており、多くの大学で学生の

ボランティア活動の奨励と支援が行われている<sup>3)</sup>。

本学では特色ある自校教育として、2016年度より「純真学」が開講されている。「純真学」は当初、「純真学入門」、「社会人セミナー」、「コミュニケーション論」、「ボランティアとキャリア形成」、「異文化交流」および「総合純真学」の6科目からなり、学園訓である「気品、知性、奉仕」の建学の精神を実践的に学び、その過程を通して

医療人となるための素養を涵養し、社会に求められる人間力を育成するための科目となっている。その後、令和4年度のカリキュラム改正により「純真学Ⅰ」、「ボランティア」、「異文化交流」、「純真学Ⅱ」の4科目に再編されているが、本学の学園訓の「奉仕」に象徴されるように、開講以来8年間を通して本学学生のボランティア活動を推奨してきている。1年次開講の「純真学Ⅰ」では本学学長による建学の理念と学園訓についての講義を受講し、続いて様々な講師による講義と演習を通して自己発見を促す。「ボランティア」は「異文化交流」とともに2年次に開講され、自己認識に客観的な視点を持つとともに地域社会に果たす貢献と社会的な役割について考察することを狙いとしている。これらを踏まえ、3年次の「純真学Ⅱ」において学園訓である「気品、知性、奉仕」を体現する医療人となる為の意識を涵養する。

## 2. 「ボランティア」の到達目標と授業概要

### 2.1 「ボランティア」の到達目標

ボランティア活動に参加するなかで、本学の学園訓である「気品・知性・奉仕」の精神への理解を深め、学園訓を身に付けた医療人となるためには何が必要であるかについて考えを深め、ボランティア活動を通して、医療人として必要な自覚、責任感、対話能力を養うことも目標とする。具体的な到達目標として以下の三点を掲げている。

1. ボランティアの概念、意義を理解し、社会貢献とは何かを説明できる。
2. ボランティア活動を通して医療従事者としての役割や責任について考え、基本的な対話能力を身につける。
3. 学園訓のひとつである奉仕の精神について説明できる。

### 2.2 「ボランティア」の授業概要

「ボランティア」は2年次開講科目として単位認定を行うが、原則として1～2年次に延べ14時間以上の活動を行うことを必須としている。ボランティアを行うにあたっては履修予定学生を対象に開催される科目ガイダンスに参加する。純真学専門部会および科目責任者により作成された履修の手引きに沿って、履修目的、履修方法、単位認

定までの流れ等を説明し、各ボランティア活動について担当教員が説明を行う。また、福岡市南区社会福祉協議会ボランティアセンターより講師をお招きし、福岡市のボランティアの取り組みや窓口についての説明やボランティア活動の心構えなどについて講演を行って頂いている。そして最後に前年度に表彰された学生によるボランティア活動の報告会を行う。規定の14時間以上の活動を実施した履修学生は、活動後に完了報告書を提出し、これまで行ってきたボランティア活動をポスター形式でまとめ提出する。提出されたポスターは一定期間学生が閲覧できるように掲示し、学生による相互評価と教員評価を行い、優秀なボランティア活動を行った報告を選出する。2年次後期の最終講義においては、選出された学生による活動報告会を開催する。活動報告会では優秀な活動についての表彰を行ってきている。

## 3. これまでの実績とその分析

「ボランティア」におけるボランティア活動には2016年から2023年までの8年間に1,732名の学生が参加している。多くの学生が複数の活動に参加するため、総ボランティア件数は3,027件にのぼる。以下、その内容を「活動の種類」「活動時期・時間」「活動地域」について集計し、その傾向を分析した。

### 3.1 活動の種類別概要

#### 1) 各活動の具体的な内容

##### (1) ボランティア活動の種類と延べ件数

「純真学」を構成する「ボランティア」において2023年までの8年間で学生が参加したボランティア活動は、活動主体によって「地域貢献」「社会福祉」「学会等」「一般企業」「自治体」「医療」「NPO」「国際交流」「その他」の9つに分類される。ボランティア活動の種類は、これらの活動の内容や対象のキーワードを組み合わせた31種類である。8年間に学生が参加したボランティア活動の延べ件数3,027件の中で地域貢献活動が1,173件と最も多く、全体の4割近くを占めている(図1)。本科目「ボランティア」は地域貢献の意義を学ぶこともねらいとしており、多くの学生が地域に出向き奉仕活動を通して学びを深めていることが確認された。

## (2) ボランティア活動の内容

ボランティア活動の具体的な内容は、①子どもの学習支援や居場所づくり②母子支援・子育てサポート③地域住民の健康づくり④障がい者や高齢者の施設等での介護補助⑤学会・研修会での運営のサポート⑥環境保全・環境美化活動⑦献血啓発活動⑧イベントのサポート⑨文化・スポーツの支援活動⑩まちおこし⑪農業・産業支援⑫国際交流⑬募金活動であった（別表1）。その中でも多くの学生が参加している活動は、地域イベント（健康フェスティバル）や学会の運営サポートであるが、2019年度はコロナ渦で学会の開催やイベントが開催できなかったため、清掃等の活動に参加した学生が多かった。また、献血（呼び込み）やリレーフォライフ、グリーンバード、ダム

周辺清掃などいくつかの活動では一度にまとまった人数が参加したことが伺える。

## 3.2 活動の時期と時間

### (1) ボランティア活動時期

ボランティア活動件数は例年9～11月が多い傾向にある（図2）。2年次の10月がピークとなっているが、これは単位認定を受けるための活動報告の締め切りが2年次の10月末であることに起因すると考えられる。一方、冬から春の間（1年次の1月～2年次の5月）の活動数は少なく、新2年次生の活動がなかなか始まらないことを示している。しかしながら、新型コロナウイルスの流行期である2020年度、2021年度には活動時期が後ろ倒しになる傾向が読み取れる。この間はボランティア活動が制限されていたため、特例で3年次以降の活動を認定していた。2022年度の活動が早い時期に多いのはそれらの学生の活動が増加したためと考えられる。

### (2) ボランティア活動時間

「ボランティア」の履修者は14時間以上の活動参加が求められているが、実際には14-15時間が最も多く、活動時間が長くなるにつれて学生数が減少する傾向であった（図3A）

1件あたりの活動時間については、7-8時間前後が最も多く、次いで14時間が多かった（図3B）。最低14時間のボランティア活動が単位認定の条件であるが、6割強（1084名/1732名）の

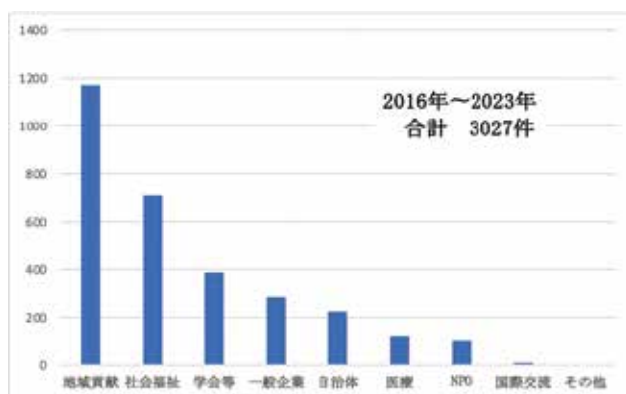


図1 ボランティア活動延べ件数

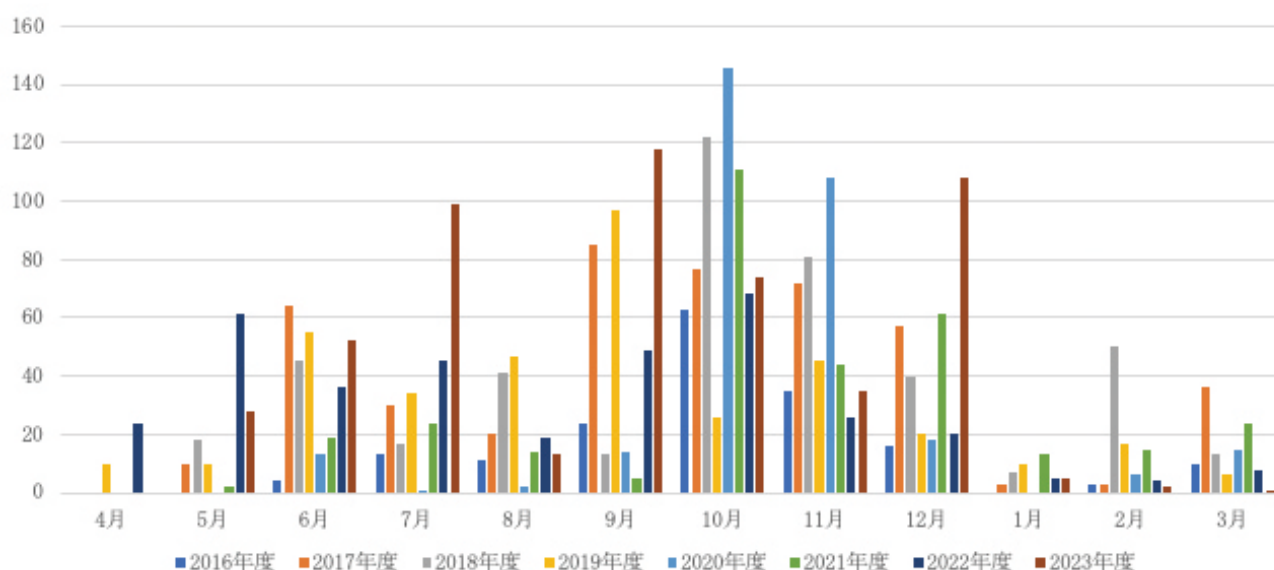


図2 月別活動件数

学生が14時間を超える活動をしていることがわかる。さらに、学年別にみると、1年次に活動を開始する学生の活動時間はまちまちであるが、2年次に活動をする学生の多くが14時間以上を1度実施していることがわかった（図3C）。

### 3.3 活動地域

福岡市内でのボランティア活動が延べ2,372件と最も多く、全体の8割近くであった（図4）。学会が北九州市や久留米市で開催された年では福岡市外の活動人数が多くなっているようである。他県での活動に関しては、長期休暇中に出身地域で活動したものと推察出来る。（別表2）

### 3.4 その他の特徴

#### (1) 学生が体験したボランティアの種類数

最も多くの学生は様々なボランティア活動を経験するのではなく、14時間以上の活動を1種類のみ参加していた（図5）。学生の中には6種類の

活動に参加している者もいたが、全体の約8割は1, 2種類と少数の活動を経験しており、活動時間が14時間以上の1種類のみに参加している学生が最も多かった。

#### (2) 学科別のボランティア活動参加学年

学科別にボランティア活動に参加した時期を比較すると、各学科とも約6割学生が2年次に参加していた。1年次に活動を行っている割合が一番高いのが看護学科で一番低いのは医療工学科の学生であった。新型コロナパンデミック期間には3, 4年次にも活動を認めていたが、看護学科が最も少なかった（図6）。

## 4. 考察

本稿では、2019年から2023年までに「ボランティア」内で実施されたボランティア活動の資料をもとに分析・考察を行った。この期間には新型コロナパンデミックによってボランティア活動範囲が制限され、学生も思うように活動できなかった

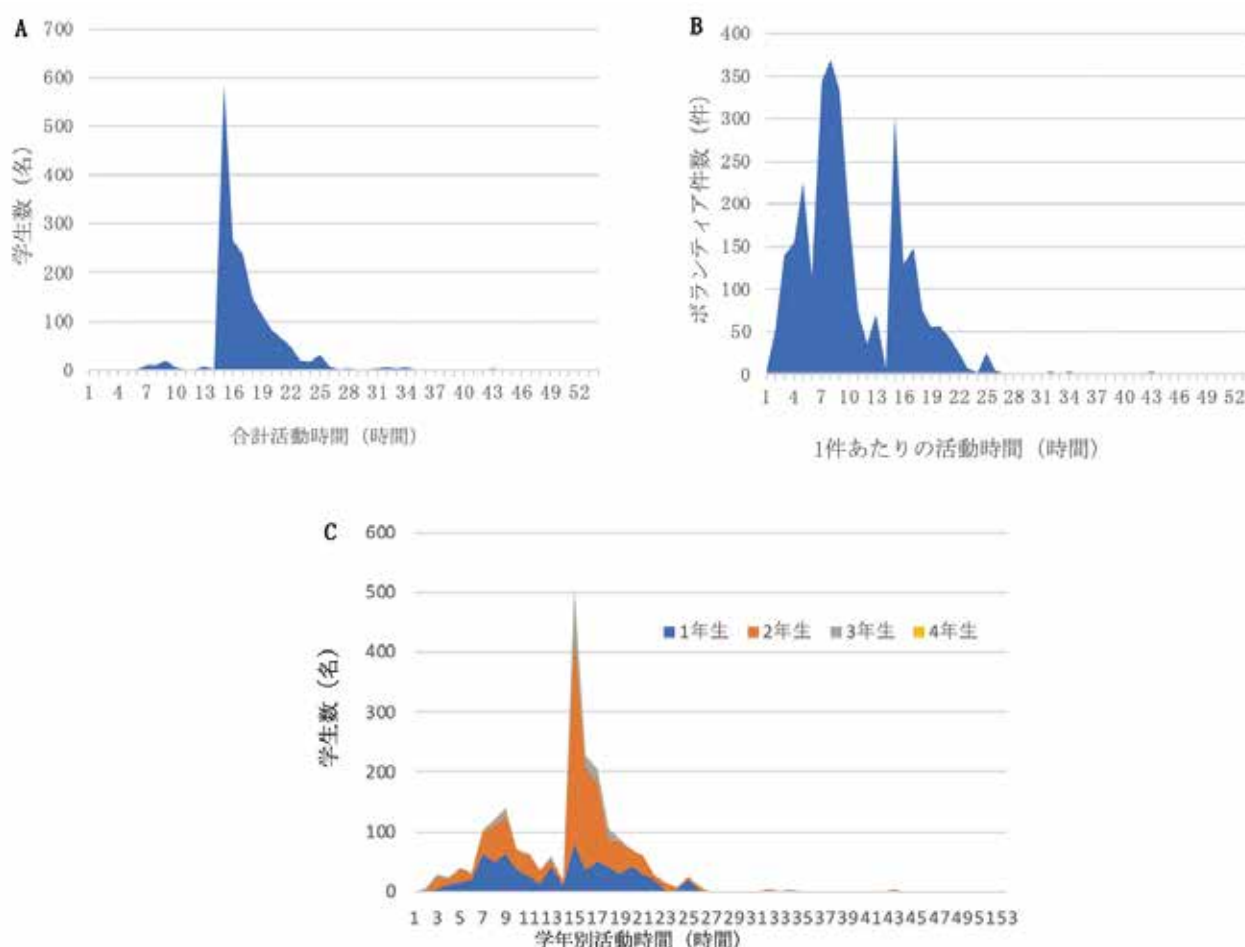


図3 ボランティア活動時間

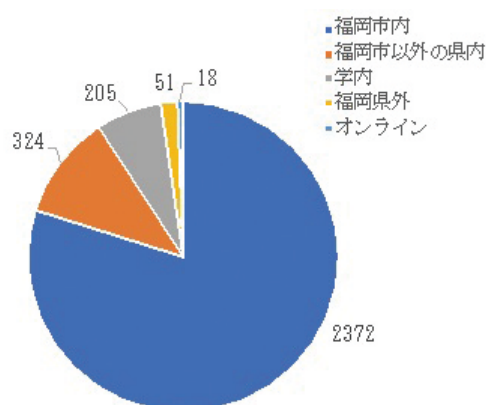


図4 ボランティア活動地域

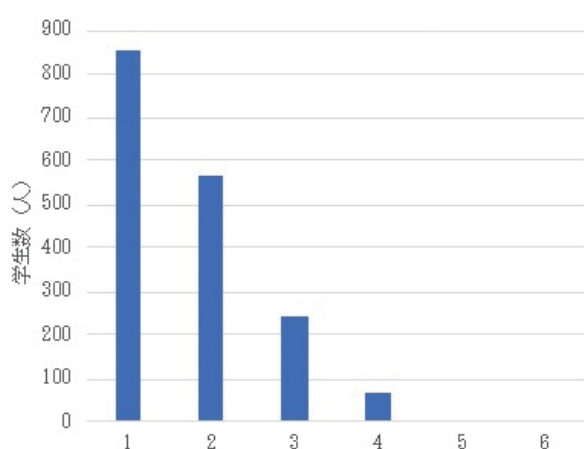


図5 参加したボランティアの種類数

たが、そのような環境下においても本学では「ボランティア」を停止せず、可能な範囲で継続させてきた。この経験は制限下においても臨機応変に科目を継続する一方法として財産になったと考えられる。以下、活動内容ごとの重要点、各年の活動の変遷、学科別の活動特徴について考察する。

#### 4.1 活動内容別の考察

##### (1) 地域貢献活動

地域貢献活動の特徴は、全学科で頻繁に行われており、特に看護学科と医療工学科での活動が目立つ。地域貢献は、学生が実際の社会問題に直面し、地域住民との関係を築く機会を提供する。これは、技術を磨くだけでなく、社会的な課題を理解し、それに対処する能力を養うための重要な教育的手段となりえる。特に医療や福祉の分野では、地域との連携が不可欠であり、このような活動は学生の将来の職業倫理や実践力を高める上で重要であると考えられる。

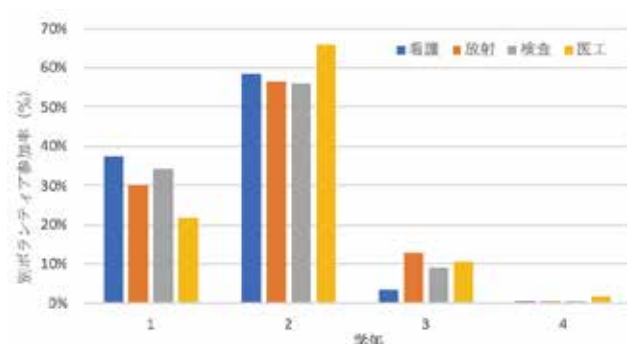


図6 学年別ボランティア参加率

##### (2) 社会福祉活動

社会福祉活動は、看護学科と検査科学科で多く報告され、特に長時間の活動が特徴的であった。社会福祉活動は、学生が医療や福祉の現場で直接人々と接する機会を提供し、人間理解や共感力を養うための場となる。長時間の活動を通じて、学生は一貫して高いレベルのケアを提供する方法を学び、患者や地域住民のニーズに応える能力を身につけることが可能となる。これらのスキルは卒業後の実践に直結すると考えられる。

##### (3) 学会サポート活動

放射線技術科学科や医療工学科での学会サポート活動が多く、長時間にわたる発表や参加が報告されている。学会サポート活動は、学生が学んだ知識を広く共有し、フィードバックを得る重要な場となる。これにより、学生は研究や技術が社会や業界でどのように評価されるかを理解し、自身の研究を深める動機づけを得ることができる。また、学会参加はネットワーキングの場でもあり、将来のキャリア形成において貴重な経験となる。そのため、この活動は全学科の学生に望むものであると考えられる。

##### (4) 自治体協力活動

特に医療工学科での自治体との長時間にわたる協力活動が顕著である。これらの活動は学生が地域社会の課題に直接取り組む機会を提供する。これにより、学生は地域ニーズに応じた技術やサービスを提供する能力を養い、地域に根ざした実践的な経験を積むことができると考える。

#### 4.2 年度別の傾向とその背景

##### (1) 2018年

看護学科と検査科学科を中心に、地域貢献・社



会福祉・学会サポートなどが活発に行われていることが特徴である。特に学会サポートの時間が長く、学生が専門分野での知識を深め、学術的な発表力を高める機会が多く提供されていたと考えられる。この背景には、学生の専門性を強化するための活動内容が重視されていた可能性が考えられる。特に医療分野では、学会での発表経験がキャリア形成において重要な要素となるため、今後も奨励されるべきものであると考えられる。

#### (2) 2019年

2018年と比較して活動量が増加し、特に医療工学科での自治体との長時間連携が活発になった。活動時間が大幅に拡大し、31.8時間にもおよぶ自治体との協力活動の報告がされている。背景には地域連携が強化されていることが伺え、社会的ニーズの高まりや地域医療の発展に貢献するため大学が積極的に地域との連携を強化した結果と考えられる。長時間の活動を通じて、学生は現場での実践的なスキルを磨く機会を得ていると考えられる。

#### (3) 2020年

2020年は活動が短時間化している傾向が顕著である。活動時間は1～4時間程度の短時間のものが中心で、一部では14時間を超える活動もあるが、全体的にコンパクトな活動が増えている。この年は、新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックが発生し、社会全体で活動が制限された年であった。これにより、長時間の対面活動が困難になり、オンラインや短時間で完結する活動にシフトしたと考えられる。学生にとっては、従来とは異なる形式での学びや実践を経験する年となり、この経験はこの科目継続の上で大学においても大きな財産となった。

#### (4) 2021年以降

2021年から2023年は、パンデミックの影響が続く中で、自治体やNPOとの協力が増加し、活動の多様化が進んだ。活動時間も徐々に回復し、再び長時間の活動が報告されるようになった。社会が新しい生活様式に適應する中で大学も活動の形式や内容を柔軟に対応させていることが伺える。学生は逆境の中でも継続的に学ぶ機会を得ており、本学の教育を通して特にパンデミック後の新たな社会課題に対応する力を身に付けていくことが期待されている。

### 4.3 学科別の活動の特徴とその意義

#### (1) 看護学科

看護学科では、地域貢献と社会福祉に力を入れており、年度を通じて最も多くの活動が報告されている。特に、2020年以降は短時間の活動が増加しており、多様な活動が展開されている。看護学科の学生にとって、地域貢献や社会福祉活動は、実践的な看護技術の向上と、患者や地域住民との関わり方を学ぶ重要な機会である。これらの経験を通じて、学生は看護師としての人間性やコミュニケーションスキルを高め、将来的には地域医療に貢献するプロフェッショナルとしての基盤を築いていけるものと考えられる。

#### (2) 放射線技術科学科

放射線技術科学科では、学会サポート活動や地域貢献が中心で、長時間の活動が多い特徴がある。特に学会での活動は23時間に達する報告もあり、最先端の研究や技術を学び、それを発表する場として重要な意義を持つ機会を得ている。これにより、研究者としての基礎的なスキルや、最新の技術動向に関する知識を深めることができる。また、地域貢献活動への参加は、診療放射線技師として地域社会に貢献する姿勢を養い、社会的責任を果たす意識を高めることに役立っていると考えられる。

#### (3) 検査科学科

検査科学科では、地域貢献と社会福祉活動が多く、2018年には24時間におよぶ活動も報告されている。検査科学科の活動の特徴としては健康イベントなどへの参加によって医学的な検査技術を実際の現場で提供する機会を得ている点である。長時間の活動では実践的な技術を習得し学生の検査技術の向上にも寄与していると考えられる。また社会福祉活動を通じて臨床検査技師としての倫理観や患者への配慮を学ぶ場にもなっている。

#### (4) 医療工学科

医療工学科では自治体との協力や一般企業との連携が中心であり、2019年には長時間の活動が多く報告されている。自治体や企業との協力は医療機器の開発や医療技術の実装に関する実践的な知識を得る機会となり、現場での問題解決能力や技術の応用力を養う機会となっている。これらの活動を通して卒業後の実社会で即戦力として活躍す

るための重要な経験を積むことができると考えられる。

## 5. 総括と今後の展望

これまでまとめてきた「ボランティア」におけるボランティア活動の分析からは各学科の活動が本学学生の医療従事者としての実践力を養うために非常に重要な役割を果たしていることが明らかとなったと考えている。地域貢献や社会福祉活動を通じて、学生は専門知識を実際の社会問題に適用する方法を学び、技術的なスキルだけでなく、倫理観やコミュニケーション能力を向上させていることが伺え、また学会サポート活動や自治体との協力を通じて、将来のキャリア形成に向けて貴重な経験を積み、社会で活躍する準備を進めているとも考えられる。一方で、活動時間が長時間にわたる場合には学生に過度な負担がかかっている可能性があり、大学として適切なサポートが必要であることも明らかになってきた。また、活動時期については3年次にはほとんどの学科で臨地実習があり、4年次には国家試験対策が本格化するため、2年次までには「ボランティア」における14時間のボランティア活動を完了させるよう厳格に指導することが重要であることもはっきりとしてきている。

今後の「ボランティア」は学修と実践のバランスが保たれ、学生がより効果的に学びを深められるように指導のあり方や評価の仕方を工夫していくことが必要であると考えている。つまり、ボランティア活動に参加する機会を提供するだけでなく、ボランティア活動のなかで学生が得た学びやその成果を学生間で共有し互いに評価することで、各々の学生が自らの役割を理解し、社会に貢献する意識を持つための機会を提供することも重要であると考えられる。そのような役割を今後の「ボランティア」は期待されている。

## 6. 謝辞

本稿を終えるにあたり、本学のボランティア活動を受け入れていただいた、個人、団体関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、膨大な資料の分析にご協力いただいた、本学事務局の皆様に深くお礼を申し上げます。

## [参考論文]

- 1 上条 秀元, 大学教育におけるボランティア実習の意義についての一考察, 生涯学習研究 (2000) 第5号, 1-13
- 2 大学ボランティアセンター一覧, NPO NEWS, (2024. 8. 24) <https://nponews.jp/volunteer/daigaku-center/>
- 3 山崎 美貴子, 大学におけるボランティアの重要性と意義について, (2017) かながわ政策研究・大学連携ジャーナル, 11号, 19-24